

表妙義・富士稜（敗退） 2015/11/22

メンバー：落合（CL・記録）、齋藤（SL）、平川

天候：曇りのち雨

ナバファーム前路肩 7:05 妙義富士 9:00（往路を下降）下山 10:30

奇岩怪石連なる妙義山にも‘妙義富士’というピークが存在する、決して端正な姿とは言い難く鋭い針峰だが、二万五千分の一地形図を見ると北東側では相馬岳北稜と並び登山道が記されていない空白地帯でこの富士の岩稜には興味をそそられる。

富士稜は南東側の麓から主稜線を一望出来るが、東側の取りつきからみるとピークの妙義富士は目と鼻の先。こんなルートでも昭和初期までは登られていたらしい。

天候はどんより曇り空、しかし降水確率も低いので特に気に留めず出発する。

前半は藪も低い落ち葉の絨毯が続く妙義らしい雰囲気尾根で一気に高度を上げる。

岩峰が出て来ると右に左に時折迷いながら行き来してオブサベしながら登るが、尾根の不明瞭さが返って面白さを演出してくれる。

魅力的な壁や滝こそ少ないが、このルート・ファインディングと信用出来ないタドン岩？、不確定要素の高さが妙義バリエーションの楽しみのひとつだ。

高度を上げるにつれ予報に反してアレよアレよと雲が低くなり霧雨が降って来る、濡れた岩を拾いながらアツという間に妙義富士に到着したら稜線は瞬間にガスに包まれホワイト・アウト。

これから続く核心のP2 ナイフリッジは雨の中かよ、、と思うと幻滅し、下山で利用する予定だった大沢下降や相馬岳～白雲山縦走はよりリスクも高そうだし思いもよらず敗退を決定。しかし、この先突っ込むと下降する事は出来ないのでタイミングよくあきらめがついた。

今年は異常気象の影響か11月は天候不順が続いたが、11月下旬でも立山連峰でさえ積雪（根雪）が無い。このままあと1ヶ月でほんとうに冬が来るのだろうか。。

帰りはいつものように登利平に縦走し冬の計画などを話し合いながら、今回のルートは来シーズンの宿題とした。